



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.37 (2010.3.31)



特集：“いちだい 知のトライアスロン” ①

「映画を観ないと、モッタイナイ！」



今年度より図書館を中心に「知のトライアスロン」が実施されています（関連記事：4ページ）。語学センターではその一環として、図書館と共催で12月に映画上映会を行いました（No. 36号に報告を掲載）。そこで、今回は「知のトライアスロン」委員の一人、国際学部のルディムナ・クリスチャン教授に映画を観るということ、についてお話を伺ってみました。

語学センター・語学教務員 堀本真由美

目次：

「映画を観ないと、モッタイナイ！」

国際学部 ルディムナ先生・・・1

ミニコラム：芸術学部 吉田幸弘先生・・・2

CALL 機能紹介①・・・2

秋のバリ；ほんとうの恋人であるために・・・3

「いちだい知のトライアスロン」事業について

図書館 中請真弓・・・4

「フランスでは小学校から授業科目です！」



ルディムナ先生

堀本（以下、H）：ルディムナ先生はフランスご出身ですが、映画にお詳しいですね。

ルディムナ先生（以下、L）：私の故郷フランスでは、映画は第7芸術として、小学校から大学までごく日常的に授業が行われています。一つの映画を国語や地理、歴史、社会、数学といった違う科目の授業の中でそれぞれ取り上げ、各科目に沿った視点から作品

を読み解いたりもします。フランスの国民教育省（Ministère de l'Éducation nationale）では推薦映画のリストも作成されていて、学校はそれに沿って授業をするんですよ。

H：それは知りませんでした！日本では映画について学ぶという感覚があまりないと思いますが、フランスには映画を鑑賞する上でのしっかりとした土壌があるんですね。本のリストと言えば、インターナショナルスクールの国際バカロレア資格（注1）取得カリキュラムで日本文学を含む世界文学のリストがあったり、欧米のGreat Booksという例もありますね。今年度12月から語学センターも参加している、各施設による「知のトライアスロン」でも、最終的に良質なリストができればいいと思います。

L：映画を観て「良かった、感動した」と感想を言うだけなら子供でも言えるんです。映画ではストーリーだけではなく、展開やテクニカルな面、カメラワーク、映像、照明、音楽といったたくさんの観るポイントがあります。例えば、俳優の衣装も、ただ意味もなくその色のものを着ているわけではありません。基本的には全てのものがその作品のために、無の状態から意図的に作りあげられています。大学生レベルであれば、作家はどうやってオーディエンスを感動させたのか、というのがわかれば面白くなりますね。

H：語学センター自習室では、映画DVDも自由に視聴できるのですが、近年は、ディズニーの映画やアニメーション、恋愛映画など、割合気楽に視聴できる作品の貸し出しが多い傾向です。よし悪しではないですが、知名度が低く渋めのテーマのヨーロッパ映画を好むような学生さんなどは珍しいです。日本では次々にいろいろな映画が上映されていますが、一般的にも娯楽性の高い映画に上映が集中しているので、派手さのない映画は気をつけていないと見逃しがちな環境ですね。

L：日本ではハリウッド映画以外はミニシアター（注2）のよ

うな場所に行かないとなかなか観ることができなかつたりしますが、フランスでは全世界の映画を偏りなく、どこでも普通に観ることができますよ。ディズニー映画も古いものなど、もちろん素晴らしかったですが、基本的にすべてがハッピーエンドできれいな世界だけを見せるというのは、非現実的で嘘に思えます。童話の研究では子供は怖いものも含め、いろいろな話を読むことによって自分の心や自分を取り囲む世の中の整理をつけている、という報告がされています。人間には暗い部分が必要であり、それを見ないで抑え続けていると、爆発したり逆に落ち込んだりしますから、その象徴や神話が扱われている映画を観たり小説を読んだりすると、自分と人間の暗いところを意識して心が整理出来、落ち着くんです。

「人の目を通して世界が広がる、ということ」

H：映画はやはりたくさん観るべきだと思いますか？

L：例えば料理と同じで、美味しいものを味わって自分で知り、他と比較したりしないと、何が美味しいかが分かってきませんね。たくさんのいい映画があっても幅広くいろいろな種類の映画を観て知っていかなければ、「いい映画」がどんなものかいつまでも分からないままです。古いというだけで観ない映画も、観てみたらとても自分に合っているかもしれません。本の場合、古いということだけで読まない理由にはならないでしょう。人間、自分一人の経験というのは非常に狭く限られたものですが、小説を読んだり映画を観ることによって自分以外の人の頭や目を通しての経験ができます。いろいろな生活や生き方、感動を知れば世界が広がり、自分が伸び伸びとした人間になれます。だから、偏って食わず嫌いにならないことが大事です。特に大学の頃は一番柔軟性があり、自分を試したり何かを吸収したりする絶好の時期です。私も大学の4年間で自分の好みを広げるために、知らない芸術、作品に積極的に触れていくようにしました。この時期、一番自分の変化や成長がありましたが、その後の自分はそれを今日まで広げていっただけだと思います。

H：確かにそれまで自分で興味がないと思っていたものに、意外な発見があると感銘を受けて世界がぐんと広がります。自分が狭い世界に留まっている状況というのは、いったんそこから外へ出てみないと気がつかないものなので、特に若いうちは意識的に自分の守備範囲外の事にも耳を傾けたり、見聞きしてみよう、というおおらかさがあるといいように思います。

「ハノーバーの雑貨屋にて」

芸術学部 教授
吉田 幸弘

2000年ドイツに2ヶ月半滞在していた時のことである。滞在先のハノーバーのとある雑貨屋に入ると、まず目に留まった“愛”という漢字。筆文字の書体は他のアルファベットに対し異彩を放っていた。他にもいろいろな語句が書かれピラミッド状に積み上げられた白いマグカップ達。こんなところにも日本があるとうれしく思った。

その日の午後、ハノーバーの繁華街を歩く若者のTシャツの背中にも同様の漢字を見つけた。

当時はちょっとした日本語ブームだったのだろう。気にしながら街を散策すると、今度は胸にカタカナが。でも何か変だ。よく見ると本来“ボ”であるはずが“ポ”になっている。これでは意味が伝わらない。彼らにとっては、言葉の意味などどうでもよく、たんなるグラフィック（絵柄）として見ているようだ。日本に来た外国人にも同じような経験があるのだろうか？

日本語の書体はカリグラフィーやタイポグラフィーとして見てもとても美しい。バランスのとれた明朝体を見るたびにそう思う。

帰国後、外国語の語句の意味をもっと知ろうと久しぶりに和英辞典を開いた。

語学センター教室の機能紹介①

学生 PC モニタ・コントロールと教材提示

今回からシリーズで、語学センター新教室の主な機能をご紹介します。まずは基本編です。

教卓にあるコントロールパネルでは、学生の出席状況や作業状況を把握でき、資料や視聴覚教材に限らずパソコン画面などを授業で提示できます。また、マルチモニタでは、学生全員のパソコン画面が表示されます。



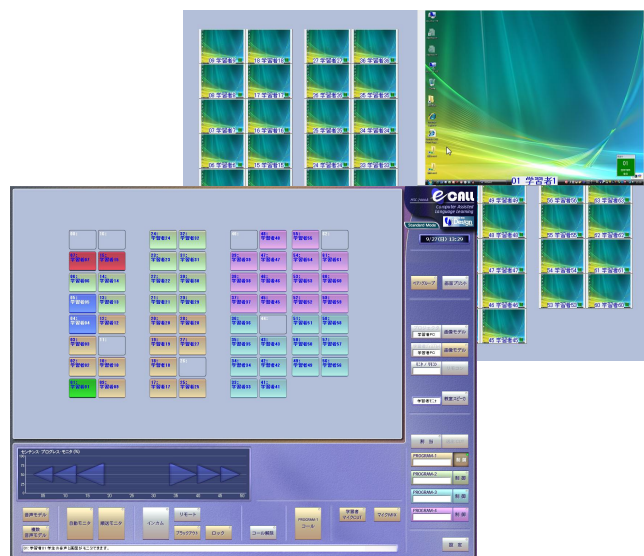
◆教卓：左「学生パソコン画面マルチモニタ」、真ん中「教師パソコンモニタ」、右「コントロールタッチパネル」

< 席表示 >

- ・出席している学生の席・名前の表示
- ・出席区分（授業・自習）や送出音声教材別に席を色分け
- ・学生の作業状況表示
- * 出欠集計機能あり**

< 学生パソコンのコントロール >

- ・「ブラックアウト」機能で学習者画面を真っ黒にできる。
- ・「ロック」機能で、学習者のパソコン操作を停止（制）止）できる。
- ・「リモート」機能で、任意の学生のパソコンを教卓で操作できる。



◆「学生パソコン画面マルチモニタ」画面（右上）と「コントロールタッチパネル」画面（左下）。マルチモニタで任意の学生を選択すると、全画面表示になる。

< 視覚教材：提示先 >

- ・正面スクリーンまたは学生モニタ（それぞれ別に、2種類の教材送出も可能）

< 音声教材：送出先 >

- ・教室スピーカーまたは学生ヘッドホン
- ・ヘッドホンの場合、学生には4グループまで別々の教材を聞かせることも可能

< 教材：ソース >

- ・視聴覚教材（図書などの資料を含む）
- ・パソコン画面・音声
- ・任意の学生のパソコン画面・音声（モデル）

周一四方のまなび3

秋のパリ；ほんとうの恋人であるために

「その後に何がおこり得るかはあきらかである」。

秋のパリのある宵、ゆったりとした南仏料理の夕食のあと、セーヌ右岸にひとりで住む彼女のアパートマンに招かれた。古典文学と美術書、史書の収まった書棚に囲まれた部屋で、「カルヴァドスになさる？それともコニャック？」と彼女は問う。カルヴァドスを、と男は応じる。

端麗な革装の詩集を取りだし、彼女は声低く詩を読む。それはローマの將軍アントニウスがエジプト女王クレオパトラの瞳に見たものを唱う詩だった。

きららかに星ちりばめてつぶらなるまなこに、見たり、いくさ船さんをみだして逃れゆく、おほわだつみを。^{*}

彼女は謂う、「私の眼のなかには何が見えます？もっと近寄って見て」。その後におこり得ることは確実に起こったはず。

男の胸に残ったのは次の最終の一行。

Toute une mer immense où fuyaient des galères.

アントニウス（伊語アントニオ、仏語アントワーヌ）が女の眼に見たのは、ガレー船が（彼を置きざりにしてローマへ）去っていく巨大な海原、地中海である。ローマの権力と富、あるいは法律と俗業か、それともエジプトの、端的には女、彼女のみがもたらす愛と自由、無法な官能と純化された聖性か。このどちらを選択するのか、決断を迫られている。この葛藤は越境の侵略者のみならず留学生にもまた、起りえる。「身につまされる」状況は遠く近く日本の明治、森鷗外や黒田清輝の事例を思い浮べてもよい。だがここでの焦点は1950年代、パリの日本人留学生、たとえば加藤周一。

詩の題も、詩人の名も忘れて、しかしその一行の詩句が胸に深く刻まれたまま、その彼女とのことを決して忘れずに、それからぼうぼう50年の歳月が経過した。夏、信州の高原のテニスコート、辻邦生ら仏文学者たちとのたまさかの会話のまわりあわせで突然その詩句の素姓が判明する。

ジョゼ＝マリア・ド・エレディア。^{**}そのキューバ生まれの高踏派の仏詩人による『トロフィー（戦勝牌）』

なる詩集に収められた「アントニウスとクレオパトラ」。加藤周一はこの詩を格別の思いで読む。特定の状況、特定のその女性との関係に結びついた、それ以外にない燃えつづける詩。（ここまでは『加藤周一著作集17』に収録の「近代の翻訳詩」参照）。



MINERVA SCACCIA I VIZI DAL GIARDINO DELLA VIRTU
ミニャーニャ画、1497-1502、ルーヴル美術館（部分）

《to Mozelle with Love》という献辞の附された加藤の「ルオーの藝術」（『著作集12』収録）はかつてはイエナにあったパリ国立近美での「ルオー回顧展」の感想に基く。アルマ広場に面したカフェでモーゼルを相手に語られたルオー論を、われわれはモーゼルのように坐って読むことができる。

「私はまた、米国の黒人画家とも知合うようになった。彼女は私よりも背が高く、つり合いのとれた実に美しい身体をしていた」（『続羊の歌』50頁）。彼女は加藤周一に自分の絵を「どう思うか、将来絵を描いてゆくことに見込みがあると思うか」と尋ねた。「米国へ帰りたくない」とも言う。私事を語ることの少ない加藤が『続羊の歌』ではこれほどあからさまに複数の女性との交際史を詠嘆をこめて記録しているのに、その視座での加藤論は管見の範囲では今のところ、皆無。

「結婚を三回し、離婚を一度した。結婚制度は重んじているが、矛盾と無理もある。若い男女がロマンチックな出会いをして、結婚し、五〇年一緒に住み、最初と同じような愛情を保つのは非常に困難だと思う」（『常識と非常識』9頁）。

「恋せよ乙女」か、「恋愛なんかやめておけ」か——「愛は時を忘れさせ、時は愛を忘れさせる」。

〔*斎藤磯雄訳によってかな表記を増やした。参考には内藤濯訳では「まどかなる両の眼のさながらに星を鏤め燦爛ときらめくなかに、／いくさ船沖へ去りゆくはてしなき海見るこち」。佐藤久美子訳では「金色の星をちりばめた そのつぶらな瞳に見入れば／そこには軍船が逃れゆく果てしない大海原」。^{**}エレディア（1842-1905）には『サムライ』『大名』という詩集もある。〕

訂正 前号最終行 [**** 『二〇世紀の自画像』109頁] は119頁でした。

（一知半戒小人）

特集：“いちだい 知のトライアスロン”②

「いちだい知のトライアスロン」事業について

附属図書館職員

中請 真弓

あなたには今、読みかけの本がありますか？ 普段どれくらい本を読んでいますか？ 最近観た映画は何ですか？ それについて誰かと話したりしましたか？

本事業は、自分なりに挑戦する読書（目標冊数の設定や普段読まないジャンルの開拓など）をして、その感想を人に伝える、というものです。平成21年の夏から「準備体操編」「助走編」という名称で、2回試行してきました。協力してくださったみなさん、ありがとうございました。各試行終了時にアンケートを実施しましたが、回答した学生は全て、新たな読書経験をし、得るものがあった、と答えています。学生時代にこういった読書経験をする事は、あなた自身の教養となり魅力となっており、今後のあらゆる場面であなたを輝かせることとなります。本学の先生方がお薦めする様々なジャンルの図書や映画は、あなたの新しい可能性を開いてくれることでしょう。

実際、就職活動において先輩方が痛感されることは「語れるものがない」ということだそうです。また「もっと読書をしておけばよかった」とも思うそうです。普段から様々なジャンルの読書をし、考え、人に伝えるという訓練をすることは、就職活動の準備としても有効のようです。

この事業に参加して、あなたも自分に挑戦してみませんか。4月から読書・映画鑑賞・美術鑑賞を含めた様々なコースをご用意しています。たくさんのご参加、お待ちしております。

(1ページから続く)

H: 外の世界や価値観をたくさん知っていることで自分が救われることもあるでしょうし、また、目標を高く持ったりできるということもあると思います。語学センターにはたくさん映画があるので、どんどん観て欲しいですね。

最後にですが、先生がお好きな映画はどのようなものですか？

L: 根本として人間としての価値を高める作品。また、観る度に新しい発見がある作品が好きです。義務で観てもつまらないので楽しむことが大事ですね。賞を受賞している作品やインターネット上の映画の評価などは、いい作品を選ぶ参考になると思います。映像が理解を助けてくれるのですから、語学力をつけるために、できれば字幕なしでどんどん観ましょう。字幕なしの映画を見るために外国語を学ぶのではなくて、外国語を上達する為にも字幕なしの映画をみることです。自分で思うよりも理解できますし、自然に言葉が身に着くこととなります。言葉が少しでもわかるようになったら、あとは積極的に使うことで上手になっていくんですよ。私は日本に来てからずっと映画を観る時は字幕がないですし、もちろん24時間ずっと字幕なしの生活ですから（笑）。

fin



注1: 国際バカロレア機構による、国際的な高校修了と大学入学資格。日本ではインターナショナル・スクールで採用されており、資格取得者の大学入学認定は、大学によって判断が異なる。
注2: 映画会社の影響を受けず、独自に選んだ作品を上映する映画館。

Illustrator 講座の報告会実施



Illustrator 報告会の様子
@語学センター事務室

2010年度の夏、語学センター事務室には、Windows版のAdobe Illustrator CS4が導入されます。そのため、2月に大阪で行われたIllustratorの講座に、語学センターの伊達に参加してきました。

この講座では、地図、オブジェクト、ふち文字の作成など、ちらし作成などに基本的な操作方法を習得することができました。

2月19日には、語学センターや他施設のスタッフに講座内容を共有するため、講座の報告会を語学センター事務室で実施しました。語学センターからは2名、図書館からは3名、計5名の参加者がありました。写真にあるよう、プラズマディスプレイにパソコン画面を投影し、主にパネルの操作方法、オブジェクトや文字の作成について実演をしました。

語学センターでは、毎年映画上映会を企画しています。また、今年度は図書館と共催の「知のトライアスロン」映画上映会も既に開催され、来年度も他施設との連携でイベントを企画していく機会が増えることが予想されます。今回の報告会が、そうしたイベントの広報ちらしなどを、施設間でアイディアを出し合い、魅力的なちらしやポスターをIllustratorで作成していくいい契機になればと思っています。

(報告： 語学センター・語学教務員 伊達美和子)

発行日 2010年3月31日
発行 広島市立大学語学センター
〒731-3194
広島市安佐南区大塚東3-4-1
編集 堀本真由美
伊達美和子(内線:6410)

Phone (082)830-1509
Fax (082)830-1794
E-mail lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ

<http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>

